

4:17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります

【 ゼカリヤ書 】

9:9 娘シオンよ、大いに喜べ。 娘エルサレムよ、喜び叫べ。  
見よ、あなたの王があなたのところに来る。義なる者が勝利を得、  
柔和な者で、ろばに乗って。雌ろばの子である。ろばに乗って。  
9:10 わたしは戦車をエフライムから、軍馬をエルサレムから絶えさせる。  
戦いの弓も絶たれる。 彼は諸国の民に平和を告げ、その支配は  
海から海へ、 大河から地の果てに至る。

【 ヨハネの福音書 】

14:1 「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。  
14:2 わたしの父の家には住む処がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために、場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。  
14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

【 ローマ人への手紙 】

11:25 兄弟たち。あなたがたに自分を知恵ある者と考えないようにするためにこの奥義を知らずにいてほしくはありません。イスラエル人の一部が頑なになったのは、異邦人の満ちる時までであり、  
11:26 こうして、イスラエルはみな救われるのです。  
「救い出す者がシオンから現れ、ヤコブから不敬虔を除き去る。

\* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



「 クリスマスが待ち望むアドベント 」

テトスへの手紙 2:13 他 小野寺 望 牧師

【 テトスへの手紙 2章 】

13 祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある現れを待ち望むように教えています。

【 ヘブル人への手紙 】

2:8 万物を彼の足の下に置かれました。  
神は万物を人※の下に置かれたとき、彼に従わないものを何も残されませんでした。それなのに、今なお私たちは、すべてのものが人※の下に置かれているのを見てはいません。 ※直訳「彼」  
2:9 ただ、御使いよりもわずかの間 低くされた方、すなわちイエスのことを見ています。イエスは死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠を受けられました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。

【 テサロニケ人への手紙第一 】

1:10 御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを、知らせているのです。この御子こそ、神が死者の中からよみがえらせた方、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスです。  
4:16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のらっぱの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、

(4ページへ続く)

## ◆ はじめに ～アドベント（主の来臨）は終わりではない

### 1. クリスマスは主のご降誕とその恵みを振り返る。

- ① イエスの十字架と公生涯（過去の出来事で理解し易い）。ヘブ2：9
- ② 栄光の完全な現れ・再臨（未実現のため理解し難い）。ヘブ2：8、1：6（文語訳）  
\*ヘブル書は「栄光・御国の完成」を意識して読む。初臨の記事と並行して別の来臨が示唆される。

### 2. 聖書は初臨に続く、再臨の必然性を教える。

- ① 主の初臨に対して、再臨が不可欠である。② 初臨で流される血は、人間の原罪を解決する唯一の方法で、再臨は罪に基づく地上の諸問題を解決する唯一の方法。

### 3. 再臨は、すべての時代の聖徒にとって希望の時である。

- ① クリスマスにとっては（空中再臨＝教会携拳）。1テサ1：10、テト2：13
- \*再臨は2種類（①教会時代の聖徒を主の御怒りから救う。②ユダヤ人の回心に対するもの）
- \*携拳は聖書の教理でありながら、クリスマンの中でもしばしば論争的となる。

## ◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

### | 聖書の構造から再臨を確信する。

\*このメッセージは、聖書がクリスマンの希望とする携拳を学ぶものである。



## I 旧約聖書が示すメシア～受難と栄光

### 1. メシアは王である

- (1) ゼカリヤ書9章9節と10節を理解するために：1～8節の預言が背景にある。
  - ① 1～8節は外国の王がイスラエルを侵略する預言：アレキサンドロス王が成就。
  - ② 9節は将来訪れるユダヤ人の王について（侵略者とは対照的な内容）
  - ③ 「あなたの王」（イスラエルの王）が「あなたのところに」（敵対するのではない）来るので、喜ぶように言われている。

### 2. 初臨のメシアの特徴（9節）：いずれもアレキサンドロス王とは対照的

- (1) 正しい：人間の正しさには限界がある。\*参照 エレ23：5～6
- (2) 救いを賜る：国々を武力で破壊し、略奪、侵略する実際とは対照的。
- (3) 柔和：苦しめられて、低くされるといふ意味合いを含む。
  - ① 人を乗せたことのない子ロバに乗って来る（アレキサンドロス王は白馬）
  - ② これらは福音書のメシアの公生涯最後の1週間で見現。③ 受難のメシア（初臨）

### 3. 再臨のメシアの特徴（10節）

- (1) イスラエルの地から戦争や戦いの道具がすべてなくなる。
- (2) メシアは世界の民に平和を宣言し、メシア的王国の統治が始まる。
- (3) 「海から海へ」：西の国境である地中海から、東の国境の死海まで
  - ① 「大河から」：ユーフラテス川から※
  - ② 「地の果て」：エジプトまでのイスラエル領土にとどまらず、全世界を指す。  
\*これらは、栄光のメシア（再臨）を表す預言 参照 詩72：8

## II 教会携拳の聖句～教会時代の信者に限定され地上再臨とは異なる

### 1. ヨハ14：1-3 〈迎えに来られる約束〉 \*患難期前携拳説と一致。患難期後携拳説とは矛盾。

- (1) 聖徒を迎えるためにイエスが戻って来る約束（時期や背景の記述はない）  
\*患難期前携拳説と一番一致し、患難期後携拳説とは矛盾する。

### 2. 1テサ4：13-18 〈すでに亡くなった信者の扱い〉

- (1) パウロの指導に対するテサロニケの信者の疑問に答える。
  - ① 既に地上生涯を終えた信者はどうなる？：信者であれば携拳の恩恵に与る。  
\*死を表現する「眠る」は、信者にのみ適用される言葉。「肉体活動」の小休止を表す。

### 3. 1テサ4：16-18 〈携拳の内容と、その舞台〉

- (1) 携拳のステップ：①主ご自身が下る。②「号令」（軍の司令官であるキリスト）
  - ③「御使いのかしらの声」（ミカエルの声）④「ラッパの響き」（携拳の引き金）
  - ⑤「キリストにある死者が、まず初めによみがえり」  
\*主の昇天の時から、すべての時代の信者の霊魂（霊体を保持）は天にある。  
教会信者の霊体が復活の体に変えられる。\*旧約時代はまだ先である。
  - ⑥「生き残っている私たちが、たちまち彼らと一緒に…一挙に引き上げられ」  
\*復活の体をいただくこと（栄化）を含む。\*例外なしに挙げられる。
  - ⑦「空中で主に会うのです・・・いつまでも主とともにいることになる。」  
\*携拳の舞台は天。\*永遠に天にいたいということでもない（地上再臨との調和）  
\*地上再臨、メシア的王国、新天新地と、主と共にいることには変わらない。  
\*これがヨハネ14：1-3の成就である。その時期についての情報は無い。

### 4. 1コリ15：50-58 〈天に相應しくない肉の体〉

- ① 生きている信者が引き上げられる他、栄光の体にされる必然性（50節）
- ② 創2：17 罪ゆえに墮落し、死が与えられた。③「たちまち」（一瞬）に強調点
- ④「終わりのラッパ」はラッパの祭りが起源（最後の長い音 テキアー・ゲドラー）

## まとめ：聖書の構造から再臨（携拳・再臨）を確信する。

### 1. 古代ユダヤの結婚習慣が示す6段階：①婚約 エベ5：25 ②準備 2コリ11：2、

- ヨハ14：2-3 ③花嫁を連れ帰る マタ25：1-6、1テサ4：16
- ④花嫁の清め 1コリ3：12-15、エベ5：26-27 ⑤結婚式 黙19：6-8 ⑥婚宴 黙19：9
- \*教会時代の信者はキリストの花嫁であり、イスラエルはヤハウェの妻である。  
\*ユダヤ人であっても、キリストを信じて救われる必要がある。

### 2. 教会時代とディスペンセーション \*キリストを拒否した罪。当時のイスラエルのみが犯しうる罪。

- (1) 教会時代は、ユダヤ人への「許されない罪」※によって出来た挿入期間である。
- (2) 救われる「異邦人の数が満ちる」（ロマ11：25-27）後に、イスラエルへの清めと約束が成就する必要がある。(3) 患難期の記事に「教会」の表記がない。

### 3. 日々主との交わりを大切に、やがて来る携拳を希望とせよ。

※ラビの見解：①二人のメシア説（「ヨセフの子」と「ダビデの子」）②イスラエルの信仰の度合いで変わる説